

砥部町人口ビジョン-改訂版- 第2期砥部町まち・ひと・しごと創生総合戦略

概要版

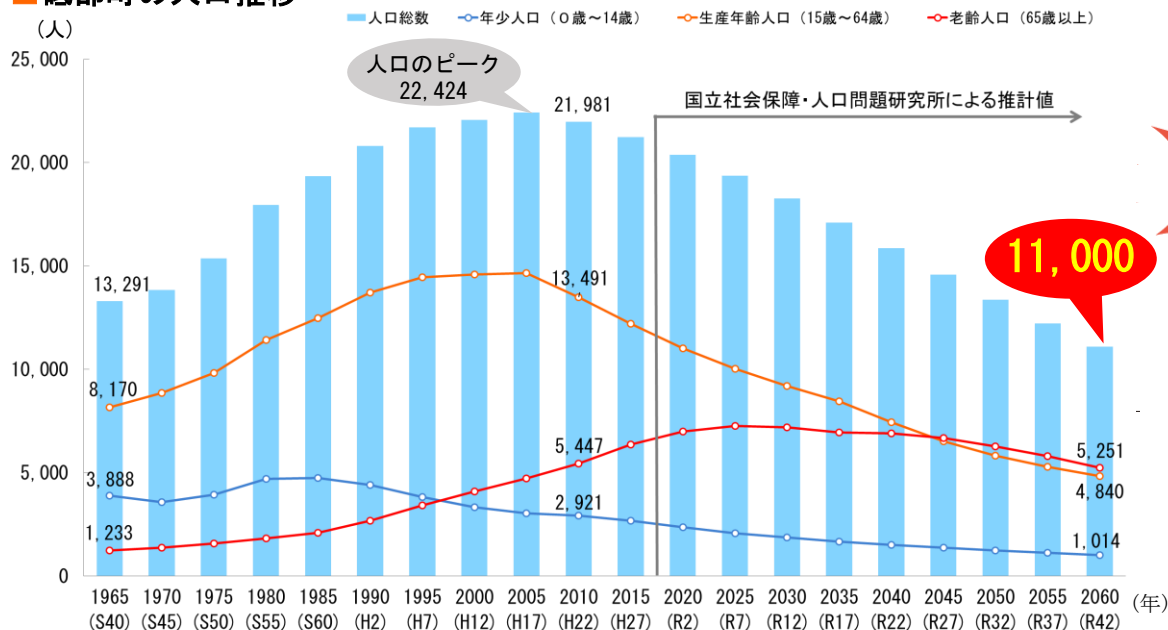
砥部町では、急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、住みよい環境を確保して、将来にわたって活力のある社会を維持していくため、『砥部町人口ビジョン-改訂版-』及び『第2期砥部町まち・ひと・しごと創生総合戦略』を策定しました。



砥部町人口ビジョン-改訂版-の概要

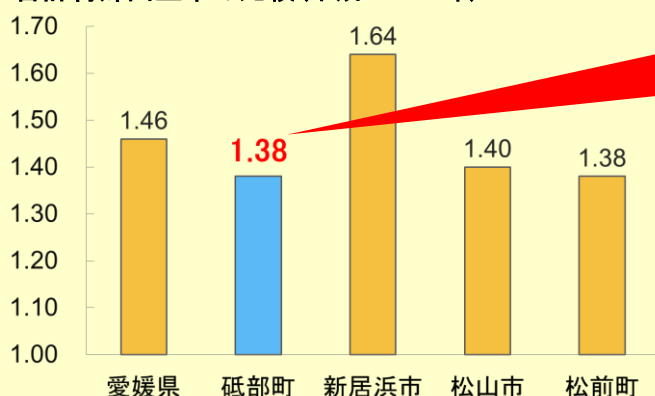
【砥部町の人口動態】

■砥部町の人口推移



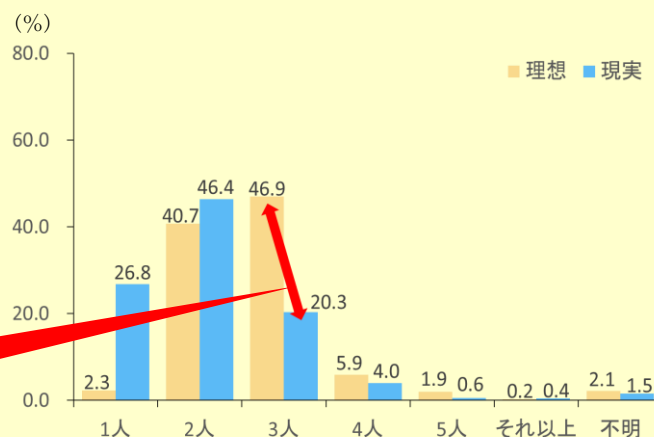
【砥部町の出生率と理想とする子どもの数】

■合計特殊出生率の比較(平成25-29年)



1人の女性が一生に産む子どもの平均数は1.38で県内市町で最低水準です。

■子育て世代の子どもの数(理想と現実)



子育て世代の理想の子どもの数を実現できていません。

第2期砥部町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要

今後、人口減少が進むなか、出会いの場の提供や、子育てしながら働ける環境の整備、定住の促進等により、主に子育て世代に「選ばれるまち」となることで、「人口減少を抑制」する必要があります。

また、独自の伝統産業である砥部焼や、とべ動物園など他には無い魅力をできる限り発信し、一人でも多くの人に来訪・定住してもらうことによる「社会増」も重要です。

第2期砥部町まち・ひと・しごと創生総合戦略では、砥部町の将来のまちの姿を「文化とところがふれあうまち」とし、本町の特色である松山市のベッドタウンとして、また、砥部焼の産地として、子育てに手厚く、さらに文化の香るアートタウンとして、とりわけ若い世代に「住んでみたい」「住んで良かった」と思われるまちづくりを進めることを目指します。

現状と課題、本町の特徴、町民等の意識・意向調査の結果を踏まえ、以下の3つの基本目標を定めました。



将来のまちの姿

文化とところがふれあうまち

基本目標①

子育て世代のモデルタウン

基本目標②

選ばれるベッドタウン

基本目標③

住みつづけたいアートタウン

基本目標①

子育て世代のモデルタウン

基本方向

若い世代の出会い・結婚・出産・子育ての希望をかなえる

◎若い世代の出会いと経済的な安定を支援することで、結婚や出産・子育てを応援し、若い世代の夢や希望をかなえ出生率の向上を目指します。

全ての町民の このまちで『働きたい』をかなえる

◎若い世代のみならず、高齢者・障がい者など多くの住民が就業しやすくなるよう、雇用の場の増加や就業条件の改善を目指した取組を進め、全ての町民が長期にわたり安心して定住できるまちづくりを進めます。



数値目標

項目	現状値	目標値
合計特殊出生率	1.38(平成25-29年)	1.45(平成30年-令和4年)
30~34歳の出生率(女性人口1,000人に対する出生数)	93.7(平成25-29年)	98.2(平成30年-令和4年)
子育て世帯の転入数	51世帯(平成30年度)	80世帯(令和6年度)

具体的な施策

～子育てするならとべ町で～ エンジョイ子育てプロジェクト

- ①子育て世帯にかかる経済的負担軽減事業
- ②子育てしやすい環境づくり事業
- ③子ども預かり環境改善事業

～結婚って素晴らしい～ 家族になろうよプロジェクト

- ①結婚応援事業
- ②産前産後総合支援事業

～『働きたい』が叶うまち～ とべハッピーワークプロジェクト

- ①正規雇用促進事業
- ②高齢者就労支援事業
- ③障がい者就労支援事業
- ④就業環境整備事業

基本目標②

選ばれるベッドタウン

基本方向

砥部町への新しいひとの流れをつくる

- ◎住希望者の視点に立ち、雇用や住まい、教育等の移住の受け皿に関する総合的な環境整備を行うとともに、移住相談窓口の整備や提供する情報の拡充を図り、町外だけでなく、町内への配信にも努めます。
- ◎砥部焼のブランディングを図るなど、就業者数の増加につながる地域産業の競争力強化を図ります。
- ◎とべ動物園や砥部焼など全国的にも有名な観光資源及び都市近郊の身近な自然、田畑などの農林業の資源を活かし、交流人口の拡大を図ります。



数値目標

項目	現状値	目標値
町外からの転入者数	504 人(平成 30 年)	550 人(令和 6 年)
人口の社会増減	△25 人(平成 30 年)	±0 人(令和 6 年)
観光客入込数	1, 147, 339 人(平成 30 年)	1, 262, 000 人(令和 6 年)

具体的な施策

～Welcome!とべ～ とべ暮らしスタートプロジェクト

- ①とべ暮らしアピール事業
- ②とべ暮らし推進事業
- ③とべ暮らし住環境整備事業

～いいところいっぱい～ とべ町満喫プロジェクト

- ①県営施設との連携推進事業
- ②着地型・体験型観光開発事業

～みんなで地方創生～ えひめまるごと活性化プロジェクト

- ①連携中枢都市圏構想事業
- ②スポーツ・文化交流連携事業

基本目標③

住みつづけたいアートタウン

基本方向

時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

- ◎人生経験豊富なシルバー世代の能力や経験を活かすアクティブシニア活用推進事業などを充実し、生涯現役のまちづくりを進めます。
- ◎農林業や医療、アートなど、強みをより活かす参加型のまちづくりにより、将来の定住者の確保に向けた粘り強く独自性のあるふるさとづくりを進めます。
- ◎少子高齢化の進む広田地域において、生活交通ネットワークの確保や医療機関の保持に努め、安心して暮らしてつづけられる地域づくりを進めます。



数値目標

項目	現状値	目標値
町外への転出者数	674 人(平成 30 年)	550 人(令和 6 年)
砥部町に住みつづけたいと感じる町民の割合(18 歳～34 歳)	47. 2%(令和元年度)	52. 2%(令和 6 年度)
砥部町に愛着を感じる町民の割合(18 歳～34 歳)	80. 3%(令和元年度)	90. 3%(令和 6 年度)
広田地域の人口	679 人(平成 31 年 3 月 31 日)	550 人(令和 7 年 3 月 31 日)

具体的な施策

～技と文化を伝えたい～ つなぐ・つなげるプロジェクト

- ①農林商工業振興事業
- ②アクティブシニアの活用推進事業
- ③教育機関等との連携推進事業

～ちょっと不便に味がある～ 田舎暮らし支援プロジェクト

- ①小さな拠点づくり事業
- ②公共交通整備事業
- ③広田地域少人数教育支援事業

～町民が主役～ 我がまち良いまちプロジェクト

- ①多様な世代によるワークショップ開催事業
- ②地域づくり応援事業
- ③地域活性化団体

砥部町の将来人口目標

本町の人口は、すでに減少局面を迎えており、今後も人口減少と少子高齢化が進行していくことが見込まれています。その結果、労働人口の減少や消費市場の縮小、社会保障負担の増加、行政サービスの質の低下など、さまざまな影響が懸念されます。

本町では、結婚・出産・子育て環境の充実、定住・移住の促進等の施策を講じることによって、出生数を増やし、転出者を減らし、本町に住み続けたい人の増加を図ることで人口 15,000 人を目指します。

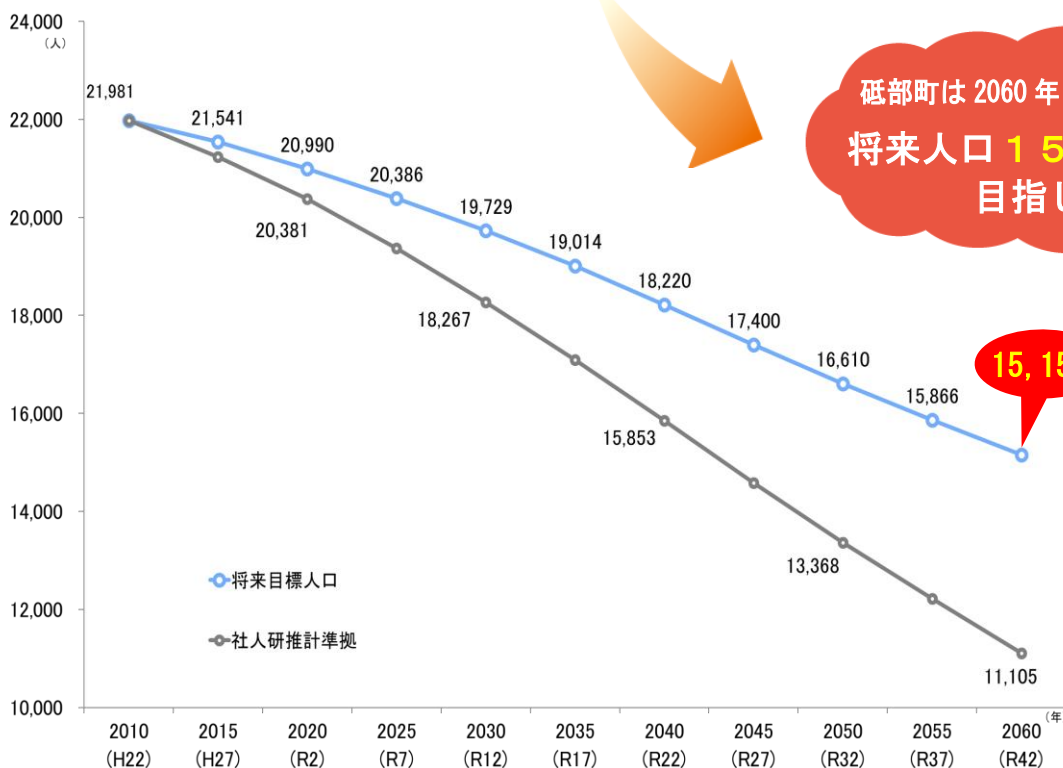
子どもを増やす

結婚・出産・育児環境の改善で、2040 年（令和 22 年）の合計特殊出生率を 1.78 まで引き上げる

特に、20 歳代後半から 30 歳代の出生率を引き上げる

定住者を増やす

転出の抑制と転入の促進で、転出者数と転入者数を同程度にする



砥部町は 2060 年（令和 42 年）の将来人口 **15,000 人** を目指します



計画の推進にあたって

計画の推進にあたっては、政策効果を検証し、改善を行う仕組み (PDCA サイクル)* を構築します。また、砥部町総合計画等審議会において効果の検証を実施します。

※PDCA サイクル

Plan (計画)、Do (実施)、Check (評価)、Action (改善) の 4 つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと。



■問い合わせ

企画政策課／ TEL 962-7250 FAX 962-4277

全体版はホームページに掲載しています。

<https://www.town.tobe.ehime.jp/soshiki/2/visionsenryaku.html>

